

Costume and Textile

No. 12

服飾文化学会会報

2006 年 10 月

役員改選について

2005 年 12 月より、選挙管理委員会による役員改選の準備が始まり、2006 年 2 月 8 日消印有効で郵送された投票用紙を同月 12 日に開票。2006・07(平成 18・19)年度の理事 28 名と監事 2 名が決定されました。次いで、2006 年度第 1 回理事会において、石井とめ子会長の任期満了に伴う会長選挙が行われ、新会長に伊藤紀之氏が選出されました。また、役員の担当が下表のように決まりました。

平成 18・19 年度 服飾文化学会役員

担 当	氏 名	所 属
総務	会長 伊藤 紀之	共立女子大学
	副会長 徳井 淑子 蔵方 宏昌	お茶の水女子大学 東京慈恵会医科大学
財務	飯塚 弘子 長田美智子	文化・服装学総合研究所 鎌倉女子大学
庶務	大網美代子	大妻女子大学
	池田 節子	相模女子大学
	永井 房子	相模女子大学名誉教授
	田中 美智	川村学園女子大学
総会・大会	岩崎 雅美	奈良女子大学
	清水久美子	同志社女子大学
夏期セミナー	桜井映乙子	和洋女子大学
	伊藤 一郎	聖徳大学短期大学部
	福山 和子	北星学園大学短期大学部名誉教授
論文発表会	能澤 慧子	東京家政大学
	小笠原小枝	日本女子大学
	常見美紀子	京都女子大学
研究例会	石山 正泰	元山梨県立女子大学短期大学部
	塚田 耕一	杉野服飾大学
	高部 啓子	実践女子大学
学会誌編集	長崎 巖	共立女子大学
	石山 彰	文化女子大学名誉教授
	石井とめ子	大妻女子大学名誉教授
	佐藤 泰子	文化女子大学
	杉田 洋子	國學院大學栃木短期大学
会報編集	岡田 宣世	女子美術大学
	鍛島 康子	実践女子大学
	泉山 幸代	浅井学園大学短期大学部
監事	鷹司 綸子	元和洋女子大学
	村井不二子	昭和女子大学名誉教授

会長就任にあたって



第 1 回の理事会で会長という重責を仰せつかり、困惑の日々を送っております。学会発足当初の 4 年間、基礎を固めていただいた石山彰先生、さらに学会の運営面、特に日本学術会議広報協力団体の認定など、

対外的にも尽力された 2 代目の石井とめ子先生、いずれも会長として誰しもが認める方々でした。

お二人が築き上げてきた実績を一步でも前進できるように、会員の方々をはじめ理事、役員の諸先生の従前にも増してのご協力をえて 2 年間の任期を務めさせていただく覚悟です。

学会誌は 6 巻を重ね、50 有余の報告に対し高い評価が得られつつあります。掲載論文を元に学位を取得した方も誕生しています。業績を評価され、新たな分野へ転身した方もおられます。学会は厳しくも、知的楽しみを共有できる場でありたいと思います。

時代が動くと新たなモノが生まれ、モノの価値観も変わります。見方を変えればモノが時代を創り、時代の文化を構築するといえます。服飾という世界は、想像以上に裾野は広く、領域も広範です。研究テーマは無限にあるといえます。固定化した領域ではないことは、言うまでもないことです。会員の皆様と共に、問題意識を共有し、新たな視点から継続的に服飾文化学会を発展させ、次期へバトンタッチできることを願っています。

会長 伊藤 紀之

2005（平成 17）年度論文発表会の報告

2006 年 3 月 4 日（土）論文発表会が開かれた。会場は日本女子大学百年館（低層棟）603 教室。石井とめ子会長の挨拶にはじまり、卒業論文 4 編、修士論文 3 編の発表があった。プログラムは会報 No.11 にすでに報告しました。参加者は 45 名余で、日本女子大学の皆さんの協力によって、発表は滞りなく行われた。



写真 1 石井とめ子会長の挨拶

発表論文の概要

卒業論文

1. ジャン・コクトーにみるファッションとアートの関係について
共立女子大学 宮澤俊恵
 2. 日本と韓国における衣服の色彩とファッション意識の分析
大妻女子大学 増淵絵里・高田雅子
 3. 日本における洋服の浸透の歴史と専門学校の役割
東京家政大学 戸田清華
 4. 繊維製品の輸入増大についての一考察—1980 年代から今日まで—
実践女子大学 野中 愛
- 宮沢論文はアーティストであるコクトーがファッションの創造性を高めるのに大きな役割を果たしたとした。増淵・高田論文は、「日本人は他人の目を気にするので衣服に個性が表れにくい」という。戸田論文は、戦後の日本の洋服の浸透に洋服学校の役割が大きかったことを述べた。野中



写真 2 論文発表会の会場

論文は、私たちの着ているものの多くが海外からの輸入製品であることについて統計的に述べた。

修士論文

1. 女児の被服設計に関する基礎研究
和洋女子大学大学院 鈴木ちひろ
2. 鎌倉時代の女房装束—奈良国立博物館蔵「重文普賢十羅刹女像」（奈良博和装本）にみる褄と懸裳の考察—
日本女子大学大学院 長尾順子
3. 三井家所蔵史料にみる近世の武家の婚礼衣装について
共立女子大学大学院 林 智子

鈴木論文は、官能調査や着用実験から望ましい衣服設計を探り、長尾論文は残されている資料から、これまでの定説に疑問を投げかけ、そして林論文では、残されている史料を丹念に調べられ、どれも優秀な論文で今後が期待される。

懇親会

日本女子大の生協食堂「ウィミン」で行われた。伊藤紀之先生の司会ではじまり、石山彰元会長の乾杯の挨拶ののち、若い学生さんも交えて歓談とともに交流の会が 5 時 30 分まで行われた。参加者 40 名。

（論文発表会担当 鍛島康子）

第 7 回総会・大会の報告

服飾文化学会第 7 回総会・大会は、2006 年 5 月 13 日（土）・14 日（日）、京都御苑の北に位置する同志社女子大学（今出川キャンパス）において開催された。初めて関西地方で開催されたが、117 名

の参加者を得て盛会の内に終了することができた。会員の皆様のご協力に感謝の意を表したい。

1 日目はあいにくの雨模様となったが、キャンパスの新緑が一際美しさを増す中、伊藤紀之会長

の挨拶、開催校の森田潤司同志社女子大学長の挨拶に続き、以下のプログラムが実施された。

1) 口頭発表

発表は1日目7件、2日目5件の計12件あり、服飾史、染織文化、芸能衣裳から最近のファッション、クール・ビズ、パソコンソフトを利用したデザインなど多岐にわたった。質疑応答では、資料の取り扱いやパワーポイント作成上の注意など、厳しくもまた温かい意見や適切なアドバイスがあり、活気に満ちた有意義な発表会であった。

2) ポスター・作品展示発表

発表はポスター1件、作品11件の計12件あり、大正3(1914)年建築のジェームズ館において展示された。2日目にはショートスピーチと質疑応答が行われた。ポスターでは近年発見されたキトラ古墳壁画像の服飾を考証したもの、作品では最新のパソコンソフトや環境に優しい新素材を利用したデザインを追究したもの、伝統的意匠・造形からヒントを得て現代に活用したもの、裁断・構成技法を独自に工夫して新たな展開を試みたものな



口頭発表会場



作品展示発表会場

ど、意欲的で完成度の高い作品が多くみられた。

3) 特別講演

1日目の口頭研究発表後に、山名邦和氏の司会で特別講演が行われた。

講師：吉岡幸雄氏

(染織研究家、染司「よしおか」5代目当主、紫紅社代表、同志社女子大学嘱託講師)

演題：『源氏物語』にあらわれた色と王朝人の色彩観

講演会場および別室には、吉岡氏自ら王朝の色を忠実に復元された装束や襲色目の標本、植物染料が所狭しと展示され、視覚からも王朝人の色彩美を堪能することができた。

講演では、文献史料を手がかりに古代染色の復元に取り組んでこられた実作者ならではの体験から、1000年以上の時を経ても褪せない植物染めの魅力や苦労について語られた。植物染めとはまさに季節の移ろいをそのまま取り込むことであり、現在も材料を昔の方法で育成、入手されるという。特に平安の王朝人は、自然をよく鑑賞し、自然を自分の生活に上手に取り入れ、「時にあいたる」ことを重視した。また光と色が透過する生絹などを用いることで、微妙な色調の変化が生まれ、襲色目の美しさが発揮され、色彩文化の発展につながったことを指摘された。

『源氏物語』には王朝人の美意識が随所にあらわれる。例えば「若紫」には、洛中の桜は散り、山の桜はまだ少し残る頃、光源氏が山吹の襲を着た童女を垣間見る場面がある。時にあった山吹は、後に紫の上となる童女がかなりの身分と教養のある良家の子であることを暗示し、それを着用させた尼君



特別講演講師 吉岡幸雄氏

もそれ相応の人であることを想起させるのである。

また吉岡氏による紫根染と紅花染のビデオからは、思い通りの色が出るまで何日もかけて染色、水洗、媒染を繰り返し、その都度染料も全て新しく作るなど、紫と紅の染色がいかに時間と労力、忍耐を要するかを実感することができた。

自然との共生によって育まれた王朝人の色彩観と色に対する美的感性の豊かさを改めて認識させられる、感銘深い講演であった。

4) 総会

岩崎雅美総会担当理事の司会進行により、石井とめ子前会長の開会挨拶、伊藤紀之新会長の挨拶、開催校として清水実行委員長の挨拶の後、豊田幸子氏を議長に選出して議事に入った。平成17年度事業報告、決算報告、監査報告、平成18、19年度役員選挙結果の報告があった。平成18年度事業計画案、予算案および杉本正年氏を名誉会員とすることが承認された。

5) 懇親会

懇親会是新島会館に会場を移し、特別講演講師の吉岡氏および53名の参加者を得て開催された。岩崎理事の司会進行の下、伊藤会長の挨拶、石井前会長の乾杯の挨拶の後、遠来の方々のスピーチ、参加者の著作出版紹介、大会実行委員の紹介があった。また塚田耕一氏の素晴らしいオルガン演奏や参加者の合唱もあり、終始和やかな懇談のひと時を過ごすことができた。

6) 見学会

2日目は薄曇りの爽やかな日となり、午後から日本最初の公許花街である島原を見学した。参加者は輪違屋74名、角屋66名で、当初の定員を遙に超える盛会となった。

最初に置屋の輪違屋(市の有形文化財)を訪ね、楓を型押しして彩色した「紅葉の間」や傘の紙を襖に貼り付けた「傘の間」、豪華な太夫の打掛などを拝観した。また玄関前の道路では、花扇太夫が禿と引船を従え、三つあしを履き、島原独特の内八文字で歩く太夫道中も特別に見学できた。

輪違屋の座敷では、蠟燭の灯りを前に「かしの式」が古式ゆかしく厳かに演じられ、茶の「お点

前」、太夫のみに許された「いにしえ」の舞があり、しばし江戸時代にタイムスリップした感があった。さらに花扇太夫から島原の歴史や江戸吉原の花魁との違い、島原太夫の衣装・髪型について、ユーモアを交えた解説があった。

その後角屋(国の重要文化財)を見学した。幕末期、勤皇志士や新撰組も利用した有名な揚屋だけあって、建物や庭園も広大であった。「螺鈿の間」、「扇の間」をはじめとする各座敷には、意匠・工芸の粋が凝らされ、贅を尽くした建築に往時の面影をしのぶことができた。今回の見学は、今日に伝承された島原の花街文化と太夫のもてなしの心にふれる貴重な機会となった。

(実行委員長 清水久美子)

プログラム

★5月13日(土)

口 頭 発 表	
13:35	◆座長 佐藤 泰子 A-1 墨資料館所蔵江戸期陣羽織—形態、材質、加飾技法に関する考察と歴史的位 置づけ— 共立女子大学大学院 ○福岡 裕子 共立女子大学 河島 一恵 長崎 巖 齊藤 昌子 A-2 人形芸術・様式の展開とその周辺 (V) —絵画表現を中心に— 山野美容芸術短期大学 澤村 英子 A-3 近代以降における和人へのアイヌ文化 の影響—博覧会とアイヌ文化普及活動 からの考察— 学習院女子大学大学院 諏訪原貴子
14:20	◆座長 鍛島 康子 A-4 バレエ・リュスのモダニズム作品とそ の衣装 東京家政大学大学院 中西 希和 A-5 ファッションにおけるアヴァンギャル ドをめぐる一考察—川久保玲、マルタ ン・マルジェラの受容的側面に注目し て— お茶の水女子大学大学院 安城 寿子
14:50	◆座長 飯塚 弘子 A-6 パソコンソフトから入る服作り—3次 元CGから入る服装デザイン— 名古屋学芸大学短期大学部 ○加藤 素子 神戸服装専門学校 五十嵐かつ代 A-7 クール・ビズ (COOL BIZ) に関する研 究 鎌倉女子大学 長田美智子

15:30	特別講演 「『源氏物語』にあらわれた色と王朝人の色彩観」 吉岡 幸雄 氏 (染色家,「紫紅社」代表,同志社女子大学嘱託講師)
17:00	総会
17:50	
18:00	
19:30	懇親会 <同志社新島会館 本館2階>

★5月14日(日)

口頭発表	
9:30	◆座長 鷹司 綸子 B-1 「春日権現験記絵」の巫女の服飾 城南女子短期大学(非) 檜崎久美子 B-2 大倉集古館所蔵能装束の伝来と着用実態に関する研究 共立女子大学 小高 理予 B-3 素材からみた近代の「きもの」に関する一考察ー近代・丹後縮緬の種類についてー 奈良女子大学大学院 北野 裕子 ◆座長 杉田 洋子 B-4 少女文化の装飾的側面ー少女雑誌に描かれたリボンとフリルについてー 共立女子短期大学 永田麻里子 B-5 新庄亀綾織復興の社会的基盤 福島大学 初沢 敏生
展示発表(ポスター・作品)	
10:55	◆座長 岩崎 雅美 C-1 キトラ古墳壁画の獣頭人身像に描かれた服飾について 文化女子大学 福田 博美

11:10	D-1 桃山時代の意匠を現代の生活に 和洋女子大学(非) 佐久間敏子 D-2 刺子織による銀糸縫い染布 相模女子大学短期大学部 池田 節子 ◆座長 常見美紀子 D-3 モルフォテックスの特性を生かしたウェディングドレス 大妻女子大学 大網美代子 D-4 ニットとシルクペーパーのコラボレーションー装飾性,機能性向上への一研究ー 和洋女子大学 多田 洋子 D-5 幾何学形体をデザインソースとした服飾造形の試みー四角形の展開ー 神戸ファッション造形大学 原田 純子 ◆座長 池田 節子 D-6 北方民族の服飾からイメージしたドレスIIーアイヌの衣服文様からー 浅井学園大学短期大学部 泉山 幸代 D-7 兜からのヒントによる帽子(3) 跡見学園女子大学短期大学部 本間小枝子 元跡見学園女子大学短期大学部 ○松本由伎子 D-8 重なり構成ー新しいテクスチャの表現ー 滋賀県立大学 森下あおい ◆座長 大網美代子 D-9 スラッシュキルトのワンピース 相模女子大学短期大学部 田中 百子 D-10 ディオール のジャケットへ Tryー 2006・オートクチュール作品の試みー 園田学園女子大学短期大学部 梶間 充子 D-11 未来型 衣服製作技術ーパソコンソフトを使用したパンツ制作とベストー 神戸服装専門学校 ○五十嵐かつ代 名古屋学芸大学短期大学部 加藤 素子
11:25	
11:40	
12:00	

第7回夏期セミナー報告

平成18年度の第7回夏期セミナーは,会員28名,非会員2名の参加で,8月9日(水)から11日(金)まで3日間行われた。前日,中部地方に台風上陸が報じられ,交通状況など心配されたが,幸い上陸もなく台風が逸れ,3日間天候も良く,予定通り実行できた。

講演と展示見学

第1日目は,JR名古屋駅に集まり「衣の民族館」で高橋春子館長により「子どものくらしと衣服」と題して講演が行われた。子どもの誕生儀礼,宮参り,七五三などの社会的認知の担い手となる稚児,これら通過儀礼における衣服がもつ意義など

を話された。

今回,この講演に合わせた特別展示があり,腹帯・産着・七五三祝着・半田市の稚児舞衣装などを見ながら講演を聞くことができた。また講演の合間には,館内の茶室で茶を立ててもらった。

夜は「愛知厚生年金会館ウェルシティなごや」で三人の講師を招いて懇親会を開いた。

伊藤紀之会長の挨拶と石井とめ子前会長の乾杯のあとで和やかに歓談が交わされた。

講演二題

第2日目は,愛知厚生年金会館内の会議室で講演が行われた。午前,竹田耕三氏が「有松絞り」



講師 高橋春子氏

について、歴史や絞りの種類、技法などスライドを供覧しながら講演された。

慶応 15 年 (1610) 有松の町を作った竹田庄九郎が「九九利 (くくり) 染」と称して絞り染を販売して以後、東海道を通る人たちの土産として有松の絞りが全国に広まった。現在、絞りの技法は 100 種類にまで工夫されている。

鉄砲絞り、大名絞り、雪花絞り、美竹絞り、大典絞り、三浦絞りなど主な技法による着物をスライドで実例を示しながら解説された。昔は木綿と絹だけの素材だったが今はポリエステル、ウールなどの繊維も絞り染めをしていると言う。

午後は鈴木貴詞氏が「尾州の織物―尾西地方の織物―」と題して、尾張一宮で長年、織物工場を経営されていた経験に裏打された講演をされた。

尾西地方 (愛知県の西北部) は毛織物の生産地として知られているが、毛織物を生産するようになったのは明治時代末頃からという。江戸時代には綿木綿を生産し明治時代に入ると絹綿交織を作るようになった。大正時代に動力織機を導入して



講師 鈴木貴詞氏

機械化されたが、いつの時代も織物業者は、毎日、織布のキズとの戦いだったという。配布された資料は、尾西地方・一宮市の織物生産、絹綿交織、織物組合、女工の常食・健康、織機の変遷、機結びなど豊富で経緯の話では資料に実物の布を貼り

付けた綿見本を全員に配布された。

バス研修

第 3 日目は、バス研修で、朝 9 時に愛知厚生年金会館を出て、名古屋市内の徳川園に移動した。

尾張徳川家の庭園だった徳川園を巡った後、徳川美術館で、特別展「天下人たちの時代―信長・秀吉・家康―」を見学した。ここには、三人の様々な資料と共に家康着用の辻ヶ花染羽織、辻ヶ花染小袖、肩衣、浴衣などが展示されている。

常設展示室には、尾張徳川家の能装束が 9 点展示されていた。いずれも唐織や摺箔、縫箔など豪華な衣装である。

徳川美術館から「文化のみち二葉館」に行った。ここは女優第 1 号といわれている川上貞奴の旧邸で、貞奴が後半生を過ごした洋風建築である。中には貞奴愛用の品々や名古屋ゆかりの文学資料などが展示されていた。

ここから高速道路を通過して 40 分。有松に着き、「KODO 竈」で日本料理を食べ、竹田耕三氏の案内で「有松絞屋敷」に行った。この屋敷は竹田耕三氏の実家で、兄の竹田嘉兵衛氏が跡を継いでいる。江戸時代に建てられた絞問屋の主家と土蔵の中で、様々な絞衣装を見せてもらい、竹田耕三氏から説明を受けた。

有松の旧街道を散策しながら「有松鳴海絞会館」に行き、絞染の道具などの資料展示を見たり、絞り加工の実演している女性から技術の話を聞いたりした。

竹田耕三氏の配慮で一部予定を変更し「山車会館」の見学を取り止め、絞染色の「久野染工場」を



徳川美術館前で



講師 竹田耕三氏

見学した。

ここでは、絞り染の現場を見た後、久野剛資社長から、展示室で絞り染の様々な素材について説明を受けた。浴衣、訪問着、帯、ワンピースなどの衣類の他にカーテン、敷布など多種類の製品が絞り染にしているという「久野染工場」の見学を最

後に、高速道路を経由して JR 名古屋駅に戻り、ここで解散した。

(実行委員長 藏方宏昌)

《第 7 回夏期セミナープログラム》

8 月 9 日 (水)

- 12 30 J R 名古屋駅集合 (銀の時計)
「衣の民俗館」に移動 (地下鉄・バス)
- 14 00 講演 「民俗服飾—子供の暮らしと衣服—」
高橋春子氏, 館展示見学
- 17 00 宿舎へ移動 (バス・地下鉄)
- 18 00 懇親会 (愛知厚生年金会館)

8 月 10 日 (木)

- 9 30 講演「有松絞り」竹田耕三氏
- 11 30 昼食 (自由)
- 13 30 講演「尾州の織物—尾西地方の織物」
鈴木貴詞氏
- 15 30 自由行動

8 月 11 日 (金)

- 9 00 宿舎発 (貸切バス)
徳川園, 徳川美術館, 蓬左文庫, 旧川上貞奴邸
- 12 45 有松・昼食「KUDO 竈」(日本料理)
- 13 45 有松絞屋敷, 有松・鳴海絞会館, 山車会館
- 17 30 J R 名古屋駅着 (解散)

☆住所変更

伊藤 瑞香

大川原雅子

金 美淑

小林 彩子

鈴木 桜子

千葉 桂子

長塚こずえ

二渡 彩

馬場 まみ

●会報 No. 11 の誤りをお詫びし、下の通り訂正します。
荻原 延元

☆新入会員

石上 美紀

乾 淑子

河島 一恵

斉藤 祥子

谷 紀子

高野倉睦子

成田巳代子

能登原秀代

☆学生会員

伊藤 真里

石黒 恵美

佐々木佳美

正田麻衣子

鈴木さやか

早川 礎子

平光 睦子

*****お知らせ*****

下記のように開催を予定しています。詳細は追ってお知らせいたします。

■ 2006 (平成 18) 年度 論文発表会

開催日 2 007 (平成 19) 年 3 月

会 場: 東京家政大学

東京都板橋区加賀 1-18-1

■ 2007 (平成 19) 年度 第 8 回総会・大会

開催日 (予定): 2007 年 5 月 18, 19 日

会 場: お茶の水女子大学

東京都文京区大塚 2-1-1

会計報告

① 服飾文化学会平成 17 年度 (2005) 収支決算報告

(H1 7. 4. 1~H1 8. 3. 31)

(単位: 円)

費 目	予 算	決 算	増 減	備 考
収				
(1) 年 会 費	900,000	1,053,000	-153,000	@6,000×167件
(2) 入 会 金	15,000	1 5,500	-500	@3,000×17件
(3) 年間購読料	36,000	2 4,000	1 2,000	@1,000×14件
(4) 学会誌掲載料	600,000	4 32,480	1 67,520	@500×3件
そ の 他	0	4	-4	@3,000×14件
前年度繰越金	-159,819	-159,819		利子
合 計	1,391,181	1,365,165	2 6,016	
支				
(1) 経 費				
1) 総会運営費	100,000	9 9,060	9 40	
2) 学会誌発行費	800,000	6 58,720	1 41,280	
3) 通 信 費	50,000	5 4,640	-4,640	
4) 印 刷 費	180,000	1 71,301	8 699	会報 No. 10・11
5) 事務用品費	10,000	3 5,892	-25,892	
6) 会 議 費	50,000	5 3,866	-3,866	
7) 交 通 費	10,000	1 2,180	-2,180	
8) 雑 費	10,000	6 7,788	3 212	
(2) 事 業 費				
1) 事 業 費 A	30,000	1 6,791	1 3,209	研究例会
2) 事 業 費 B	100,000	9 5,506	4 4,494	論文発表会
(3) 広 報 費	20,000	0	2 0,000	
(4) 予 備 費	31,181	1 0,520	2 0,661	見舞金
小 計	1,391,181	1,215,264	1 75,917	
(5) 次年度繰越金	0	1 49,901	-149,901	
合 計	1,391,181	1,365,165	2 6,016	

② 特別会計

特別会計収支報告	収入	支出	現在高
○名簿作成費(大会余剰金)	213,866	2 77,501	-63,635
○ホームページ関係費 (夏期セミナー余剰金)	1,349,112	3 90,845	9 58,267

③ 服飾文化学会平成 18 年度 (2006) 収支予算

(H1 8. 4. 1~H1 9. 3. 31)

(単位: 円)

費 目	予 算	前 年 度	増 減	備 考
収				
(1) 年 会 費	960,000	9 00,000	6 0,000	
(2) 入 会 金	15,000	1 5,000	0	
(3) 年間購読料	36,000	3 6,000	0	
(4) 学会誌掲載料	600,000	6 00,000	0	
そ の 他	0	0	0	
繰 越 金	149,901	-159,819	3 09,720	
合 計	1,760,901	1,391,181	3 69,720	
支				
(1) 経 費				
1) 総会運営費	100,000	1 00,000	0	
2) 学会誌発行費	800,000	8 00,000	0	
3) 通 信 費	70,000	5 0,000	2 0,000	
4) 印 刷 費	180,000	1 80,000	0	会報 No. 12・13
5) 事務用品費	40,000	1 0,000	3 0,000	
6) 会 議 費	70,000	5 0,000	2 0,000	
7) 交 通 費	20,000	1 0,000	1 0,000	
8) 雑 費	10,000	1 0,000	0	
(2) 事 業 費				
1) 事 業 費 A	30,000	3 0,000	0	研究例会
2) 事 業 費 B	100,000	1 00,000	0	論文発表会
(3) 広 報 費	20,000	2 0,000	0	
小 計	1,440,000	1,360,000	8 0,000	
(4) 予 備 費	320,901	3 1,181	2 89,720	
合 計	1,760,901	1,391,181	3 69,720	

会 報 No. 12: 平成 18 年 (2006) 10 月発行

編集発行人: 服 飾 文 化 学 会

事務局: 〒 102-8433 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1

共立女子大学 被服意匠研究室

TEL, FAX 0 3-3237-2496

e-mail i sho@s1.kyoritsu-wu.ac.jp

http://www. fukushoku-bunka-gakkai.jp

